

第7回 3市共同資源化推進市民懇談会 議 事 録

日時 平成20年10月7日(火) 午後1時~5時

場所 小平・村山・大和衛生組合3階 大会議室

1.出席者

寺嶋座長、小林委員、白水委員、中村委員、林委員、原田委員、近江委員、鈴木委員、霜出委員、平本委員、山岐委員

[事務局] 戸井田事務局長、市川課長、片山課長補佐、乙幡主査

[コンサルタント] 3名

[傍聴者] 0名

2.議 事

(1)開会

・寺嶋座長から開会の挨拶

(2)事務局確認事項

[事務局(片山課長補佐)] 事務局から4点ほどご報告する。1点目、本日は後藤副座長と遠藤委員が欠席、白水委員が少々遅れると連絡があった。2点目、市民意見について、「広げんとつ」全域版で記事を出し募集している。いただいた意見は、まとめて懇談会にご報告すること、また、私共で検討している3市共同資源化関連の参考にさせていただく。9月27日の折込で配布したが、現時点で12件の意見書が出されている。懇談会への報告は、10月15日の締め切り後、とりまとめてこの場で行うということで、ご了承いただきたい。3点目、訂正の議事録案をお送りしたが、その後さらに訂正があった。事前に配布したものは破棄していただき、本日配布した修正版を正式な最終版とさせていただきたいが、いかがか。なお、修正箇所であるが、山岐委員から2箇所ほど言い回しのご指摘をいただき、表現をより丁寧にしたもので、内容的には変わらない。

[寺嶋座長] 他の方で、自分の発言した箇所等について何かあるか。

[林 委員] 訂正ではないが、2ページで原田委員が「3市ごみ連絡会がどのような団体か」とお尋ねをした後、市川課長が「どういう方の意見でも意見はきちんと取り上げる」というお答えをした。その後、私が「3市ごみ連絡会関係者は熱心に傍聴していた」と答え、原田委員も「そのような人なら納得である」とお答えがあった。この点について、傍聴していない方からの意見も取り上げるべきであり、市川課長の考えの方が広く良いお考えであるとともに、私の考え方が足りなかったということ、ここで表明させていただきたい。

[寺嶋座長] 了解した。では議事録はこれで良いか。

(異議なし)

[事務局(片山課長補佐)] では4点目、先程、懇談会委員以外の方々からの意見書の提出・

受理状況をご説明させていただいたが、懇談会委員からも 2 件いただいております、この 2 件についても本日本配布して良いか。

(異議なし)

[事務局(片山課長補佐)] それでは配布する。事務局報告は以上である。

[原田委員] 先程の林委員からの意見について、「連絡協議会」は頭にあったのだが、「3 市ごみ連絡会」の名称は理解しかねたので、質問した。お話を伺うと、どのような団体か十分理解できる。

[事務局(市川課長)] 連絡協議会は衛生組合周辺の 12 自治会で組織しているものであり、3 市ごみ連絡会は連絡協議会とは別組織で、ごみ処理に関心のある方が集まっている団体である。

[原田委員] 了解した。

[寺嶋座長] 意見書がかなり多く提出されているように伺ったが、全て委員の方々に配布しているか。

[事務局(片山課長補佐)] 懇談会委員宛・座長宛のものと事務局宛のものがある。事務局宛のものについては、現時点で 12 件提出されているので、10 月 15 日締め切りの後、まとめてお渡ししたい。なお、座長宛のものについては、全て配布している。

[霜出委員] 山岐委員からの意見書について、問題点 1、2 は、東大和の現施設立地場所において、リサイクル施設ができる前提において書かれたのか。

[山岐委員] 平成 19 年 3 月発行の小平・村山・大和衛生組合発行の小平・村山・大和衛生組合 3 市共同資源化等に関する調査報告書に記載された内容を前提とした。

[霜出委員] 対象地は確かに住居地域であり、山岐委員が住んでいるマンションが関係してくると思うが。

[山岐委員] 我々の住むマンションだけではなく、他にも住宅がある。

[霜出委員] 直接関係しているところというのは。

[山岐委員] 戸建住宅、工場の社宅などもある。

[霜出委員] 「プラスチックを圧縮することにより、多種多様の有害化学物質が発生すると言われ、近隣住民はもとより施設内作業員の健康と環境への影響が心配される。」とあるが、私自身の考え方としては、多摩市の施設に行っても、そのようなことは全く感じなかった。むしろ、小平市中島町に住んでいる人間としては、この焼却施設の煙突の方が相当被害を被っていると感じている。小平市にもそのような施設があるわけであり、3 市共同で計画が実行された際には、小平市だけが責任をかぶるのではなく、3 市の人間が各自責任を持ち、平等な立場に立ってもらいたい。また、建設地として他の場所を提示してくれと書かれているが、実際、東大和なら山の上の湖のそば、武蔵村山なら山の中などという考えが浮かぶのは当然である。計画を中止しろなどというのは、3 市資源化施設建設問題に際して筋違いであると思う。

[山岐委員] どのような意見を持たれるのも自由である。

[霜出委員] 外部の方からの意見書の中で、他に適当な場所があるのではと書かれているが、なぜこのような形になったかと私が想像するに、拠点を 1 箇所に集めて効率を上げ、コストを抑えて運営していくことが可能であるとのことであると思う。

- [山岐委員] 今本日の懇談会が始まったばかりであるが、先にこの議論をするのか。
- [寺嶋座長] この懇談会の中でどこまでの問題を扱うのかについて、まだ議論されていない。これまで組合・市の構想・計画等の書類・文書が出されているが、この懇談会で、場所はどこが適当であるということまで結論を出すべきなのか、このようなタイプの施設がこういう形で必要であるということまでにするのか。どこに建てるかについて周りの方々と折り合いをつけない限り、施設は作れないものであり、そこまではこの懇談会では背負いきれないのでは。
- [霜出委員] おっしゃる通りである。この懇談会は資源化についての懇談会である。建設地は3市の市長あるいは理事者が決定することであり、我々が決定することではない。このような形で市民に大きな負担を強いる、賛成できないから計画を中止してくれなどというのは、後ですべき話であり、今出すべき問題でないのでは。
- [寺嶋座長] 基本計画などの中で、今の東大和の暫定施設がある場所に建てるという計画があり、それに対して周辺の方々が意見を言うこと自体は認めるべきもので、反対意見を表記することも結構であると思う。ただ、この懇談会の中で、立地まで含めて議論するべきなのかについて、懇談会としてはまだ議論していない。今の霜出委員の意見は意見としてお聞きしていただき、最終的にこの懇談会でどこまで議論するべきか、これから議論していく必要がある。
- [林 委員] 私もそのように思う。なお、山岐委員が意見書を出すのは問題ないと思う。今日が重点課題5のあるべき施設について考えるワークショップの日であり、それに先立ち自分の意見を前もって出しておくことは、ワークショップで出す意見のもとになると考えられ、強い反対意見もその方の意見であるため、構わないのではないか。
- [霜出委員] もちろん施設のあり方についての意見として見ているが、ワークショップよりも前にこのような形で意見を持ってこられると、次の話ができないのではないか。
- [山岐委員] 私はあくまでも委員としての意見を出しているものであり、もし反対なのであれば、意見を出していただきたい。初めから意見を封じ込められるのは困る。
- [霜出委員] 言い過ぎた面もあり反省する。私としては、連絡協議会の会長をやっていた関係から、そのような意見を述べた。
- [小林委員] 私も意見書を出したのだが、それはワークショップの時間内には全ての意見を表記できないためである。28日に開催された環境シンポジウムの映写会の中でも、東大の先生達が、実験結果を踏まえ、プラスチック圧縮時にかなり高濃度の化学物質が発生するとしっかり述べている。発生した化学物質は、焼却の場合は熱で上に上り煙突を通して拡散・希釈されるが、圧縮した化学物質は熱がない分、地を這って近隣住民に健康被害を与える。映像を見た周辺住民も、健康被害や環境汚染をかなり心配しており、予防原則にのっとり、未知のリスクが高いものは立地しないでほしいという意見書がかなり出ているため、映写会に出られなかった方にもその点をご理解いただきたい。また、リサイクルについては、これまで長い間行われてきたわけではなく、今発症しなくても、アスベストのように日が経ってから発症する可能性もある点についてもご理解いただきたい。
- [寺嶋座長] 意見を出していただくのは結構であり、いずれにしても、最後に、懇談会として

どのような形で報告書をまとめるかが重要である。組合としては、計画を推進するような結論が出ればありがたいと思うだろうが、あくまでもこれは市民懇談会であり、皆様の意見を言っていただくこととする。どのような施設を作るかという「あり方」は、かなり技術的な検討面も多いかもしれないが、コンセンサスを得ることも出来るかと思う。しかし、どこに施設を作るかは、周辺住民の方々の賛成がない限りは進まない話であり、行政が考える問題である。懇談会にそこまで投げられても、正直とても荷が重たいし、そのような役割を持った懇談会ではないと考えている。今日は、重点課題5のリサイクル施設のあり方について、立地問題とは別にしてワークショップに取り組んでいただきたい。

[事務局(市川課長)] 今座長がおっしゃった通り、この懇談会をお願いしていることは、施設の場所ではなく施設のあり方である。資源物の処理について、例えばプラスチックではマテリアルリサイクルとサーマルリサイクルのどちらが良いかなどもふくめて意見をいただきたい。懇談会として一つの合意を得ることにならなければ、全ての意見を併記する形をお願いしたい。

[中村委員] 施設がどこにできても、外部に委託しても対策は必要である。その施設がどんなものであれば安心かなど、もう少し広い気持ちで議論した方が建設的な意見が出ると思う。直接利害がある場合もあるが、この場では良識ある議論をして、皆様に合意ができたなら良いと思う。

[寺嶋座長] フランクな意見を出していただいて結構であると思う。それでは議題に移る。

(3) 議題

第6回懇談会のワークショップ結果について

(コンサル(米田)から資料1「第6回3市共同資源化推進市民懇談会ワークショップ結果報告」の説明)

[寺嶋座長] 少数意見も残すため、意見として対立するようなものが含まれる形でのまとめ方となっている。また、AグループとBグループとで別にまとめており、最終的には2つのグループの意見を1つに集約する必要性も出てくる。いかがか。

[山岐委員] 前回のワークショップの結果を丁寧に説明されたが、進め方について要望がある。懇談会は残すところあと3回であるにもかかわらず、まだ最終のまとめまでしていない。お願いするのが遅かったが、ワークショップ形式よりも、事前に委員がレポートを出し、それをまとめていただいたものを事前配布し、何か問題点・修正点・意見等があれば次の懇談会で議論する形の方が効率的なのではないか。ワークショップで出た意見については、発表の時点でだいたいわかっているので、資料を配るだけで委員は内容を理解できるのではないか。

[寺嶋座長] 今回が最後のテーマであり、今日のところは今までと同様、ワークショップ形式でいかざるを得ないと思う。山岐委員のように文章を書きなれている方であれば良いが、人によってはなかなか難しい。いずれにしても、ワークショップ自体は気軽に意見を出せるメリットがあったり、他の意見に触発されて議論が発展したりするので、今日は今までの流れでやることとし、報告書の原案が出来た段階で、皆さんに何度も読み返していただき、議論するという形で進めるということでは

かがか。

(異議なし)

[林 委員] 前回、Bグループで、分別区分に関する大きな前提として、「リサイクルは採算性のあるものだけにする」という意見が出た気がするが、資料で抜けているのではないか。模造紙にまとめた時には、かなりするどい形で「採算性のあるものだけにする」という意見が出ていた。今日は、「採算性のあるものだけに任せていたら、安易な形での循環になってしまうため、政策的にもある程度の費用を覚悟してでも資源化に取り組まなければならない。」という対極意見を出そうと構えてきたが、採算性についての意見はどこに書かれているのか。類似意見と思われるものは、「資源として収集するものは、利用する方法が見出されたものとする。」であるが。

[寺嶋座長] まだ最後の懇談会まで回数があるため、修正することでも構わないか。

[林 委員] もちろん構わない。

[コンサル(志賀)] 今のご指摘の箇所は、18ページの上から6、7番目、キーワードで言うと「検討の流れ」「市場価値」のところであると思う。当日、模造紙でまとめた際には、「採算性」という中分類のようなくりを設けていたものを、全ての意見を横並びにする関係で落ちてしまっているため、採算性に関する意見であることが分かるように、コメントの部分で補足させていただくということではいかがか。

[林 委員] 良い。それで、「採算性というくくりだけではなく、行政の政策的な面で、資源化に一定程度補完していく形で計画的にやっていくべきものもあるのではないか。」という意見を出させていただきたい。

[白水委員] 18ページの上から7番目の意見を出したのは私であるが、不純物が混じると価値が落ちるため、売れるものは売っていくべきであるという発想であり、価値があるものに限って収集するべきであるという意図で申したわけでない。

[寺嶋座長] 再利用できるように、排出するものの質を整えていくということで良いか。

[白水委員] 良い。

[林 委員] それとは別の形で、採算性のあるものだけ、という形で意見が出されたら、私は記憶している。そのような考えに限ってしまうと、社会的に後退するのではないかという懸念がある。

[寺嶋座長] 資源自体が、もう先が見えてきてしまっている。

[林 委員] 多くのエネルギーをかけてレアメタルの回収等をしているが、採算性だけを見ると疑問が残り、それだけを基準にするのは危険なのではないかと感じたため、意見として追加したい。

[寺嶋座長] 了解した。また、AグループとBグループ、それぞれ独立してまとめていただいたが、それを1つにまとめておいていただきたい。他に意見がなければ休憩の後ワークショップに移る。

重点課題5(3Rの受け皿となる施設のあり方)の解決方針について

[事務局(市川課長)] それでは、コンサルから先に説明をさせていただく。

(コンサル(志賀) から資料2「ワークショップ参考資料」の説明)

(2グループに分かれて、ワークショップ形式での議論)

(4) その他

[寺嶋座長] 事務局から何か連絡はあるか。

[事務局 (市川課長)] 山岐委員から意見がある。

[山岐委員] 本日、意見書を出させていただいたが、その後に陳情書の写しを添付している。これは組合議会に出させていただいているものであり、本日は既に所定の時間を経過しており、詳しく説明させて頂く時間がないので、後ほどぜひお読み頂き、私たち住民の気持ちをご理解いただければありがたい。小林委員から何か補足して頂くことがあるか。

[小林委員] 意見書に記載した通りである。

[寺嶋座長] 事務局から次回の日程についてご連絡をお願いします。

[事務局 (片山課長補佐)] 次回の懇談会は 28 日であるので、よろしくお願ひしたい。また、宣伝であるが、今度の土曜日に、「環境と地域交流」をテーマとした「えんとつフェスティバル」が開催される。普段お見せしていない箇所の施設見学も実施するほか、様々な企画があるため、ご参加いただけたらありがたい。

[寺嶋座長] 本日は充実したワークショップであったと感じている。それでは終了する。

(5) 閉会

3 . 配布資料

当日配布資料

- ・ 第 6 回 3 市共同資源化推進市民懇談会議事録 (修正版)
- ・ 資料 1 第 6 回 3 市共同資源化推進市民懇談会ワークショップ結果報告
- ・ 資料 2 ワークショップ参考資料